

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム アイケア手稲 2F	評価実施年月日	平成21年 11月 5日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年 12月 1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>町内の方たちが立ち寄ったり、地域に住んでいるピアノの先生に音楽療法を行って頂くなどし理念に基づき取り組んでいます。</p>	○	<p>地域密着型サービスの意義を職員全員で確認して地域生活の継続支援を行なって行けたらと思います。</p>
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を玄関・休憩室等に掲示し、職員が意識を持つようにしている。又 管理者、職員が共有するよう努めています。</p>	○	<p>利用者の皆様やご面会に来られる皆様の目に触れる所に掲示している。具体的なケアについて、ミーティングの意見の統一を図っている。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>今後 町内会の会合、地域の集まりや行事に参加し折に触れて事業所の実践を伝えて行けるよう努めています。</p>	○	<p>運営推進会議や、町内の集まり時に 日々の活動報告をしている。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩や買い物に出かけ、近隣の人達と挨拶を交わしたり お花を頂いたりしています。近所の方がホームに立ち寄って利用者様とお話をされています、今後も継続出来る様努めています。</p>	○	<p>今後も ご近所の方々に気軽に声を掛けて頂けるよう、日々の挨拶から取り組んで継続していきたいです。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域住民の一員として 町内会に参加していません。</p>	○	<p>今後もホームの行事や 地域のお祭りや行事等に利用者様と共に 積極的に参加出来る様、また参加して行きたいと思います。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行っています。</p>	○	<p>今後 ホームでの実践内容を踏まえて、地域へ様々な研修・会合に係わりながら認知症のケアに努めて行きます。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価をスタッフ全員で行いサービスの質の向上に努めている。外部評価の結果はミーティングで報告し、改善に向けて検討や実践につなげるよう努力しています。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	入居者様、ご家族、町内会役員様、民生委員様、包括支援センター職員様等の参加で2ヶ月に1回行っている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域の管理者会議に参加し、包括支援センター・介護保険課・保健福祉課などに気軽に相談や助言を頂くよう継続出来る様努めて行きたいと思います。	○	今後 相談・質問等があった時に、色々な専門分野の方々にアドバイスを頂き、指導のもと向上に努めて行きたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	権利擁護等様々な制度を理解する為、新しい職員も入ってきたので今後も研修会等に参加する機会を設けられるよう努めていきたいと思っています。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止の勉強会を実施し、理解に向けた取り組みを行っている。	○	今後も定期的にホーム全体で勉強会を行って行きたいと思っています。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書と共に重要事項も一緒に時間をかけ説明しています。、また、事業所のケアに関する考え方や取り組み等の説明も合わせて行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者様の日々の言葉や様子から思いを察する努力をし、利用者様本意の運営に心掛けています。</p>		
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>金銭について用途の確認や金銭出納帳等を明示して、都度あるいは定期的に報告を行っている。ふれあい日誌に日々の様子を記載し、毎月1回ご家族様へ郵送しております。</p>	○	<p>ご家族様が来訪時は、管理者や職員より利用者様の日々の状況報告も行い、何か突発的な事があれば直ぐにご家族様へ連絡をしています。</p>
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に苦情箱を設置しています。</p>	○	<p>今後も、ご家族様が職員に、意見・不満・要望などを話せる様努めて行きたいと思えます。</p>
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日頃からコミュニケーションを図り、話せる環境づくりを心掛けています。</p>		
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>職員の急病や急な休みの時になどは、都度調整を行っています。</p>	○	<p>今後も職員の負担にならない様、勤務調整を行っていきます。</p>
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>基本的には各ユニットの職員を固定化し顔馴染みの職員による、ケアを心掛けています。新しい職員が入る時に入居者様へ紹介を行い早く馴染みの関係が築けるよう配慮しています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	全職員が共有できるよう研修内容をフロア会議にて報告する機会を作っています。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者は地域の会議に出席し交流する機会があります。	○	今後 関連の事業所などと、学習会や交流を持つ事によりサービスの質の向上を目指して行けるよう提案し行っていきたいです。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	可能な限り、職員一人ひとりが毎月希望の休みが取れる様シフトの調整を行ったり、利用者と触れ 一息入れる時間を設け休憩室でもらっています。	○	今後 親睦の場をつくり気分転換を図れる機会をつくる様にして行く。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	社内ではあるが勉強会等を開催し一人ひとりがモチベーションの維持に勤め、職員は資格取得に向け頑張っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	サービスの利用について相談があった時は、必ずご本人に会って心身の状態やご本人の思いに向き合い、スタッフがご本人に受け入れられるよう努めています。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	サービスの利用状況など、これまでの環境や生活歴についても話を聞き今後のサービスに繋げられるよう努めていきます。	○	入居前にご本人、ご家族とお会いし不安や希望を聞く機会を設けています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時、ご本人やご家族の思いや状態等を確認し、支援の提案、相談をくり返し信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるようにしています。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人やご家族様に事業所を見学してもらい、短時間でも過ごして頂き、ご本人・ご家族様が職員やサービスの場に徐々に馴染めるよう支援しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご本人様やご家族様から以前はどうだったか などの話を聞きかせています。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	行事などで職員と一緒に楽しまれたことや、日々の体調の変化など気付いたことはご家族様にお話し、来所時には居室にてゆっくりお話が出来る様配慮しています。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	日々の生活の中で状態の変化など記録に残し生活しているかふれあい日記を月に1度送付して見て頂いています。 今後もご本人様やご家族様を中心とした支援を行っていきたい。	○	ご家族様が来訪時、管理者より近況報告をし、良好な関係を築けるよう努めている。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今まで通っていた外出先などを継続していき、関係が途切れないよう支援し、ご本人様の希望も聞くよう努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	コミュニケーションが苦手な利用者様を全職員が理解・把握して、一緒に輪の中に入れるよう支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居後も連絡が取りやすい状況を継続するよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	どのように生活したいか ご本人様と会話をし、汲取るよう努めています。	○	フロア会議にて、ニーズに合った支援をどのように実現させるか検討しています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様やこれまで係わってきた方から話を聞き、情報を集め共有するよう努めています。	○	入居後も 不明な事があれば、情報を集め生活リズムの把握に努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている。	日々の健康状態や体調の変化など心身の状態を把握し、その都度 変化があれば対応できるよう努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人と色々な場面で会話する機会を作りその中から課題や意向などを聞きだしそれをもとに、ご家族様とも話し合いご意見などを頂いています。またカンファレンス会議を利用し、ご本人、ご家族の思いを職員とも共有し介護計画書に反映出来る様にしています。	○	今後も主治医に相談し、積極的に意見を求めて介護計画の作成に繋がって行きたいと思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	通常3ヶ月に1回作成しますが、著しい変化や退院時は関係各者より情報を収集した後、職員と会議を開き現在の状態にあった介護計画書を作成しています。	○	作成時はご本人やご家族様の意向を重視し作成しています、作成後は双方に説明し署名、捺印を頂いています。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の状態は個々のふれあい日記や支援経過に記録し情報を共有しています、それをもとにフロア会議の中で話し合いその内容も記録に残し、介護計画の見直しに反映しています。	○	支援経過には気になる言動を記入するようしており機会がある事に、ご家族にお知らせする様にしています。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	バリアフリーになっており、日々の歩行練習や手すりを使用して 下肢筋力の低下防止に努めています。	○	ホールの内には入居者様が描いた絵を貼ったり、窓やフロアの壁も季節にあった装飾している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	月に一度の床屋の出張があります。希望者は、外出を兼ねて美容室へ行かれています。移動パン屋・ヤクルト販売なども定期的に来訪しています。	○	ホーム横の道路で、交通取締りをしていることもあり、警察の方が立ち寄られることもあります。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のサービスを受けている方がいなく、支援が出来ていません。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議には地域包括支援センターの職員様が出席され、周辺情報や支援に関する情報交換を行っています。	○	手稲ふれあいフェスティバルにも、毎年 参加させて頂いている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	今まで通っている病院はご家族様対応にて受診して頂いています。行けない場合にはホーム対応にて受診し、かかりつけ医は月に2回の往診となっており往診の際日々の状態や相談を行い支援しています。	○	ホーム対応時は都度ご家族様に報告をしております。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけの医師に日々の状態を相談し、かかりつけ医と脳神経外科の医師との連携のもとホームでの支援ができるよう努めています。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	24時間、連絡が取れる体制になっています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時にはご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、又 医師やご家族様とも情報を共有し早期退院に向け連携を図っています。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時の契約の際、ご家族様に説明を行っています、現在は終末期は行っていません。	○	今後 も重度化した場合について、ご家族様と十分に話し合いを重ねて支援出来る様努めて行きたいと思えます。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化した入居者様については、ここでの生活が穏やかに過ごせるよう、ご家族、医師、看護師で話し合い支援して行きたいと思えます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>住み替えが生じた際は十分な情報を提供しご本人やご家族に対し、ダメージを最小限に抑えることが出来る様努めています。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>一人ひとりを尊重し安心して楽しく生活して頂くよう、毎日続けるように努めたい。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日常の会話・表情・行動・仕草から何を言いたいのか察して、ご本人様の希望に近づけられるよう努めています。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者様 一人ひとりの生活ペースを大切に、職員側の都合に合わせないように努めています。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>毎月一度 床屋の出張があり、希望者はカットして頂いています。ご家族様対応にてご本人様が希望する美容院へ行って頂いています。</p>	○	<p>今後も ご本人様の意見を尊重し継続していきたい。</p>
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食材は業者より配達され、カロリー計算された献立となっています。職員と一緒に食事の下ごしらえ後片付け等のお手伝いをして楽しみを持って頂けるよう心掛けています。</p>	○	<p>誕生日や行事食に、季節の食材や利用者様のリクエストの献立を取り入れている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご本人様の希望を取り入れ提供させて頂いています。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、オムツを外せるよう心掛けています、またオムツお使用した方であっても気持ち良くトイレでの排泄が出来る様取り組んでいます。	○	一人ひとりの排泄パターンを把握して、安心した生活を送れるよう支援していく。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	ご本人の体調に合わせた入浴を心掛けています。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりに合わせた生活リズムを尊重し安心して眠って頂けるよう配慮しています。	○	夜間は一時間ごとの巡回を継続し 安心して眠っていただけるよう安全確認を行っています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ひとり一人の生活歴や性格等に配慮して楽しみごととして、出来る事を職員と一緒にしています。お手伝い頂いた時は必ず感謝の言葉を伝えるようにしています。	○	利用者様が何かしたい事は無いか一人ひとりに話を聞き、実現出来るように支援して行けるよう取り組んでいます。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	散歩や外出時にお買い物をしたり、出張販売も利用させて頂いています。	○	外出時 購入する際は、職員が見守りしながらご本人様でお金を支払って頂くよう支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ご本人の希望に応じて季節を肌で感じてもらい、日常的な散歩や買い物、レストランでの外食、床屋での散髪などに出かけています。	○	希望者には日程を決めて外出を実施している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご本人が行きたいという場所や外出・遠出については予め計画を立て、職員の勤務を調整する等しながら徐々に始めている。場合によってはご家族様の協力を依頼しています。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望があれば支援しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪時は、各居室でゆっくりと会話出来るよう心掛けています。	○	行事の際、お便りや電話連絡をし 参加の呼びかけをしている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し、職員で共有の意識を持って、身体拘束をしない取り組みとして身体拘束委員会を月に1回開催し事例検討しています。	○	本社で行われる管理者会議の場においても身体拘束廃止についての事例検討会や虐待防止について話し合わせ、各事業所のフロア会議で再度検討会を開催しています。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者様が外出したそうな時は、止めるのではなく声を掛けたり一緒について行くなど、安全面に配慮し自由な暮らしを支えるようにしています。玄関は防犯上の為夜間のみ施錠しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は利用者様と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、さりげなく利用者様の状況を把握するよう努めている。夜間は数時間おきに利用者様の様子を確認するとともに、起きられた時すぐに対応できるようにしています。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	全てを取り除くような事はなく、利用者様の状況に応じた対応をしています。	○	刃物や洗剤類は入居者様の目に触れないよう職員一人ひとりが最新の注意を払うように取り組んでいます。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日々、ヒヤリハットを記録し職員の共有意識を図っている。万が一事故が発生した場合には速やかに事故報告書を作成し、アクシデント会議を早急に開催し、今後の予防対策に取り組みご家族様への説明と報告を行ってまいります。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	夜間の緊急対応マニュアルがあり、職員全員が周知出来る様努めています。	○	新しい職員も増えた為 再度、救急救命講習等も受けたいと思っています。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力の下 避難訓練を年2回行っています。	○	今後も運営推進会議場を利用させて頂き、地域の方々の協力を得られるよう話しをしていきたいと思っています。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族様へ、入居者様の状態の変化に伴い随時、起こりうるリスクと対応策について説明を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝バイタルチェックを行い、個々の異変に気を配っています。ご本人の訴えのある時は常にバイタルチェックを行い、主治医にも報告 指示を受けています。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬マニュアルを作成し それに従い幾重にも確認できるシステム作りをし誤薬のないよ誤訳の防止に努めています。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	個々の排便チェック可能な限り行い状況に合わせ主治医に相談を行い指示の下予防に取り組んでいます、又便秘にならないよう身体を動かしたりと配慮しています。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨きは定着しています。それぞれの力に応じ介助を行なっています。就寝前は入れ歯の洗浄も行っています。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食材は業者が入っておりカロリー計算されています。また利用者様一人ひとりの水分量 または食事量を把握しバランスの取れた食事が出来るよう心掛けています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	インフルエンザワクチン予防接種は利用者様にはご家族様の同意の下、職員は媒体とならぬ様、全員が予防接種を受け出勤時は必ず手洗いうがいを行っています。日常 利用者様が手を触れられる手すりや椅子、テーブルなど日々消毒薬で拭いています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具や布巾などの消毒または食材の賞味期限などに気を配り、使用した物の消毒など随時行っています。調理用エプロンと日常の物を区別し衛生管理を行っています。	○	朝食・昼食・夕食の検食をしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前にはプランターを置き花を植え楽しんで頂いています。ベンチを置いて外の空気にゆっくりと触れて頂けるような機会を設けています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共同のフロアには明るい雰囲気でも過ごせる様に入居者様の好きな音楽やテレビなどを流しています。またテーブルや玄関には時々花を飾るなどして心和むよう工夫しています。装飾なども利用者様と一緒に手作りしています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	日々入居者様が思い思いの場所で過ごせるよう配慮しています。	○	廊下には行事の写真を入居者様の目線に合わせて思い出して頂けるよう貼っています。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の気に入った家具などを置き、ご本人が居室内で動き易いよう配置にも考慮し居心地の良いお部屋作りを考えています。	○	入居者様が安心して過ごして頂けるよう入居時やその後も必要なもの等があった際はご家族に依頼するなど努めています。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	フローアは一定の時間に換気をしており、利用者様の発汗の様子や冷えなどに注意して調整するよう温室時計を利用し過ごしやすいよう配慮しています。	○	冬は乾燥する為、各居室に個々のバスタオルを干し乾燥を予防し、居間には加湿器を設置しています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	室内は全てバリアフリー、廊下には手すりも設置しています。トイレは、車椅子の方が使用しやすくなっており手すりも設置しています。	○	廊下の手すりを利用したリハビリも、個々に行っている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレ前に入居者様の目線に合わせて掲示物を貼ったり、各居室前にもご本人の目線に合わせた表札があります。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	夏は玄関前に花やトマトのプランターを置き 利用者様に水やりをして楽しんで頂けるよう努めています。	○	ベンチに座って、花を觀賞しながら会話をしたり、外の空気に触れ気分転換出来る様な機会を設けています。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p> <p>話せない利用者以外は、意向をつかんでいる。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>昼食の時やティータイムの時間。 午前・午後とゆったりする時間がある。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>各入居者様のペースに合わせて暮らしている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>出来ることはして頂き、出来ないところは支援する事で能力を発揮し表情にも出ている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>行きたい所には出かけられる様に努力しているが、行けない所もあり。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>月2回の内科 往診、歯科の往診もある。 その他の医療機関との連携も取れている。</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>状況に応じてご家族様と連携を図り、柔軟な体制を取れるようにしている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない</p> <p>来訪時や電話の際に、ご家族様から話を聞いている。信頼関係が継続するよう努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない 	運営推進会議を通し地域の方々が来訪される。移動販売の方々の来訪もある。
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> ① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない 	地域の方々とのつながりが深まった。
98	職員は、生き生きと働いている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない 	充実していると思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない 	おおむね満足していると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどいない 	おおむね満足していると思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

気持ち良い排泄を目指し、リハビリパンツやパットを使用している方でも人間本来のかたちである、トイレでの排泄が出来る様支援すると共に一度は、リハビリパンツの使用を余儀なくされた方でも職員の間で十分話し合いや連携を図ることで、布の下着への移行が可能となり、ご本人やご家族から喜ばれています、今後も気持ちの良い排泄を目指し努めて行きたいと思っています。